

と風呂に浸って、詩など吟じていたというエピソードも残っている。

後年、磐瀬重喬翁が没し、頌徳碑の除幕式が行われた。東京で、要職にあつた後藤氏は、公務多忙で、自ら出向することができず、使者を代席させ、かつての報恩の辞を厚く述べた。

碑の額面「敬神尊皇」の讃は、後藤新平の筆になる。

(話者 久保初五郎)

陣 場

《小 中》

陣場は白ヶ堂の南の山頂にある。その昔、八幡太郎義家が蝦夷征伐に来た時、ここに陣を敷いて、長沼の蝦夷討伐をした所といわれている。今も陣太鼓を埋めたという所があり、踏むと音がするという。

義家は笠間稻荷大明神を拝受して来て、御宅山に祀り、戦勝を祈願したという。討伐後、兵を卒いて帰る時、稻荷様の仕守役を家来の中から選んで残した。この人は小泉氏で、子孫は元禄二年まで御宅に住み、後に上小中に移り、一村をつくり、三嶽神社の神主となった。

一説によると、小泉氏は、大阪豊臣家の家臣で、大阪城落城

陣馬跡

